

令和7年度学校評価（最終評価）

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(1) ニーズに応じた教育内容の充実 (2) キャリア教育の充実 (3) 視覚障害教育の専門性の向上 (4) 相談体制の充実 (5) 関係機関との連携 (6) 防犯・防災計画の整備 (7) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止</p>		
担当	重点目標	具体的方策	最終評価
幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを相手に伝える力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の気持ちを受け止め、感情を言葉にしたり、伝え方の模範を示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション場面を意図的に設け、教師が適宜模範を示すことで幼児の社会性が向上した。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ楽しさや自分の成長を実感することで、主体的に学ぼうとする力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を適切に把握したり目指す姿を共有したりする。 児童がPDCAを行えるようにする。 体験学習を豊富に設け、体験に基づく児童の言動を適切に支援し主体性の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と定期的に連携して多面的な実態把握と情報共有に努めた。 PDCAを意識した学習過程を設定した。 体験で得た知識や感じた気持ちを振り返って発表したり、伝え合ったりすることで、学習意欲が高められた。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の力や個性を最大限発揮できる環境づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で生徒が自己存在感を実感できるようにする。 「No Attack, No Chance」を合言葉に生徒の自己決定の場を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート項目「クラスの中で自分らしくいられる」には全員、「学校生活で楽しいと思える時間がある」には約9割の生徒が「はい」と回答した。 保護者アンケートで「頑張りを認めてくれる」「話しやすい関係性がとれている」と評価いただいた。生徒が自己実現できる環境が整ってきている。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携を図り、生徒の主体的で対話的で深い学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報交換等を積極的にを行い、職員の知見を深めるとともにその活用を図る。 関係機関と連携し、校外での活動や実習などの体験的な活動を積極的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個々に応じた福祉サービスの利用や通学、受験や就労などについて、深い知見での支援や指導、助言が多く行われた。 「声の力」出前授業や大学生による出前落語、校外学習など体験的な活動を積極的に設けた。生徒が、自分で考え、選択し、取り組むという主体的な力が高まった。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための研修の実施。 個々の幼児児童生徒のニーズに応じた組織的な指導・支援の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より始めた授業研究研修を持続可能なかたちに発展させ実施する。 個別の指導計画等を一層活用できるよう、様式を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業者・参観者ともに負担なく行える授業研究研修の在り方や実施時期について、これまでの反省に基づき分掌内で議論し、8年度の実施方法について方向性を示した。 個別の指導計画の教科（領域）一覧性が高まるよう様式を改善した。また、部間での引き継ぎがより円滑に行えるよう個人ファイルで管理できるように整えた。
ICT支援部	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報化推進を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字閲覧としてのUDブラウザの利用促進を検討する。 ICT関連の情報やサービスを発信し、働きやすい環境や仕事の効率化について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季研修や新転任者講習、オープンスクール、愛知教育大学の学生向け講義、臨床実習発表会等でUDブラウザの周知や体験の機会を設けた。生徒や職員の一部でUDブラウザの活用が増えた。 AI活用の研修会を実施し、教材作成や資料の音声化等に取り組んだ。また、研修会やICT活用ワンポイント等の情報を発信した。ICT支援員の活用により、音声ユーザー向けに様式を一部整備した。

教育支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援活動の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校と地域の学校間とで連携できる関係づくりをし、地域の視覚障害教育担当者の支援力向上を図る。 ・本校で行っている地域支援に対する校内職員の理解と協力が得られるよう、地域支援活動の共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の視覚障害教育に携わる職員に対し、定期教育相談や通級指導を中心に関係を築き、本校主催の研修会や行事等に多数参加した。 ・地域支援活動のニーズの高まりを受け、来年度以降の地域支援の対応や理解促進について全校的な体制やガイドラインについて提案・調整している。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なキャリア教育・就職支援を目指し、保護者・職員への支援充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭向けの講演会に専門性の高い講師を招くよう計画する。 ・職員が参考にできるような進路指導資料を完成させる。また、進路指導に役立つ参考情報を職員向けに発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の講演会・座談会好評だったが、周知に課題があった。来年度は情報伝達等でPTAと連携し改善したい。 ・進路の手引きを作成したので、今後職員内で内容の確認を進める。来年度保護者への配布を目指す。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動やいじめ等の早期発見、早期対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会で各部の生徒情報の交換の場を設け、生徒指導上の課題についての共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会の際に、情報の共有を行った。今後は、保健室や寄宿舎など、より広い視点からの情報を得たり、得た情報を職員間で共有したりできるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害による被害への意識を高め、防災への共通理解の促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害を想定した避難訓練の実施等の防災教育を通して実践的な知識と態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災の避難訓練を通して避難経路等の確認をすることができた。 ・避難用バッグや救護旗のポール更新など、備品の充実を図ることができた。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の生涯にわたる健康の保持増進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教職員が、幼児児童生徒の心身の健康課題に適切に対応できる能力を養う。 ・学校、家庭、地域の医療機関等の連携との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな健康情報については、情報の回覧や連絡により、周知できた。食物アレルギーについての職員研修で緊急時の対応力を養った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校食育の推進と学校給食の安全・安心の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通して望ましい人間関係や愛知県への愛着の心を育てる。 ・衛生管理を徹底し、安全で安心できる学校給食に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県食材を使った献立の時には、放送を流して愛知県についての知識を深めることにつなげた。 ・給食配膳前の体調やエプロン等の身だしなみを確認することで、衛生意識を高めた。
広報・渉外部	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアを利用した業務の効率化と簡略化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メール配信サービスや教員用サーバーを活用し、PTA活動に関する書類や月ごとの行事予定など、迅速かつ最新の情報で提供できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各メディアの活用により紙面での配付物を大幅に減らすことができた。引き続きペーパーレス化を進めつつ、関係者全員の情報保障やアンケートなどの回答の完全回収に努めたい。
寮務部	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を通じた、寄宿舎生活支援の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎だよりや寄宿舎支援記録を活用し、保護者と生活の様子や目標を共有することで連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、寄宿舎だよりを刊行した。実際の生活が保護者へより伝わりやすくなり、連携がとりやすくなった。今後も家庭と深くつながりを持ちながら、温かい舎生支援をしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・入舎に関する相談、受け入れ体制の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学対応等、学校行事の時間を活用し、広く受け入れられるような体制を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎への見学者や入舎相談について、誰でも対応できるよう内容の共有、精選をした。また、今年度は段階的な体験入舎や本入舎を積極的に受け入れ、さまざまなニーズに応えられる体制づくりができた。
理療部	<ul style="list-style-type: none"> ・理療分野における職業自立に必要なキャリア教育の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が理療師の心得を習得できるようにするため、模擬患者を対象とした医療面接を計画する。また臨床実習において外来者等との接遇を数多く体験できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年においては、臨床実習見学を通じて患者を実際に施術する場面や雰囲気を経験することができた。第2学年では模擬患者を対象とした医療面接や施術する機会をもち、臨床実習に向けて経験を積ませることができた。第3学年は生徒数が少ないことを生かし、個々の生徒の課題に丁寧に取り組むことができた。
学校関係者評価を実施する主な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実 ・関係機関との連携（学校いじめ防止基本方針に基づく取組を含む） ・視覚障害教育の専門性の向上 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止 		

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標の達成に向け、中間評価及び保護者アンケートを実施しその評価結果を生かし、具体的方策の改善を図りながら全教職員で取り組み、成果を上げることができた。 ・ICT関連情報の周知や活用、個別の支援計画の様式改善による活用促進など、業務の効率化を図った。また、施錠時間の繰り上げや定時退校日の増加など、勤務の適正化に向けて検討し決定した。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引を作成。今後有効な活用につなげる。研修会をPTAと連携し、より保護者のニーズに応じた内容で実施する。 ・相談事業は増加傾向にあり、分掌だけではなく学校全体で業務を担う体制を構築することで、教員の専門性向上を図る。